

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2007年11月中旬から12月下旬までの旬別
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業:さんま棒受網漁業
 対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量: 来遊量は徐々に減少し、11月中旬には断続的となり、ほぼ終漁する。

(2) 漁場: 11月中旬は釧路～襟裳岬沖が漁場となるが、散発的となって終漁する。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 来遊量は徐々に減少し、11月中旬は中位水準、11月下旬～12月上旬には低位水準となる。12月中旬には断続的な来遊となり、ほぼ終漁する。

(2) 漁場: 11月中旬～下旬は、宮古～金華山沖が漁場となる。12月上旬には宮古沖の漁場が消滅し、大船渡～金華山沖が漁場となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 11月中旬は中位水準、11月下旬は高位水準にまで増加する。12月上旬から減少を始め、12月上旬には中位水準、12月中旬以降は低位水準となる。

(2) 漁場: 11月中旬～12月上旬は、常磐北部～犬吠埼周辺に漁場ができる。12月中旬には常磐北部の漁場は消滅し、12月中旬～12月下旬は小名浜～犬吠埼周辺が漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量					
	動向	断続的				
	漁 場	釧路～襟裳岬沖				
三陸海域	来遊量					
	動向	中位減少	低位減少	低位減少	断続的	
	漁 場	宮古～金華山沖	宮古～金華山沖	大船渡～金華山沖	大船渡～金華山沖	
常磐海域	来遊量					
	動向	中位増加	高位増加	中位減少	低位減少	低位減少
	漁 場	北部～犬吠埼周辺	北部～犬吠埼周辺	北部～犬吠埼周辺	小名浜～犬吠埼周辺	小名浜～犬吠埼周辺

3. 漁況の経過概要

(10月下旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年は上回ったものの、前旬をやや下回り、中位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は期後半に増加した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、霧多布南～釧路南南西の 10～50 海里付近(表面水温 11～12℃)、襟裳岬東北東 30～60 海里付近(11～14℃)であった。霧多布～釧路沖では、ほぼ連日小型船多数が操業。期後半には大型船が数隻操業。小型船では 20 トン以上漁獲する船が多く、大型船で 40～100 トン弱漁獲した。襟裳岬沖では、大型船主体に数隻操業し、50～100 トン以上漁獲した。

(3) 魚体

29～30cm モードの大型魚と 24～26cm モードの中型魚主体。霧多布沖では、中型・小型魚が多く混じるようになった。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬を下回ったものの、前年並の高位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、23～24 日夜と 29～30 日夜に来遊量が増加した。

(2) 漁場

三陸海域の主漁場は、宮古北北東～釜石東の 10～20 海里付近(16～20℃)、大船渡東 5～10 海里付近(18～19℃)、金華山東 10 海里付近(18℃)であった。宮古沖では、連日大型船主体に数隻～35 隻操業。数トン～100 トン以上漁獲した。大船渡沖では、25 日と 28 日夜に大型船が数隻～10 隻操業し、15～70 トン漁獲した。金華山沖では、30 日夜に大型船数隻操業したが、数トンの漁獲であった。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚が主体で、27cm モードの中型魚が混じる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬を上回ったが低位水準であった。

(2) 漁場

常磐海域の主漁場は、小名浜東～東南東の 20～30 海里付近(18～19℃)、請戸東 30 海里付近(19℃)であった。小名浜沖では 28～29 日夜に大型船が数隻操業。40～85 トン漁獲した。請戸沖では、30 日夜に大型船が数隻操業したが、数トン程度の漁獲であった。

(3) 魚体

27～28cm モードの中型魚主体であった。